

4種のEL34/6CA7聴き比べ

# Tesla EL34/6CA7



## シンフォニックなオーケストラのダイナミクスを見事に描出。ピアノも芯のある響き

新 このEL34も、非常に好感を持って聴きました。この前に聴いたマラーD製に比べると、多少、色気が乏しい感じですが、テレフンケン製よりも、こちらのほうが音のこなれがよいようです。

「ペーターヴェン」を弾くウイーン・フィ

ソニー・ロリンズ」も同様で、少し脂っ

社会主義国時代の旧チェコスロヴァキア国管真空管製造会社であったテスラで製造されたEL34である。テスラは、ドイツのシーメンスやテレフンケンの真空管を製造していたこともあり、年季の入った真空管作りが、外観からもうかがえる。

ルの弦も非常に素直に再現され、シンフォニックなオーケストラの表情やダイナミクスも見事に描き出されています。

「ドビュッシー」のピアノも、非常に芯のしつかりした、フォーカスもきちんと合った感じですが。

「ソニー・ロリンズ」も同様で、少し脂っ気が足りないかなという感じはあったものの、これしかなければ、十分、先ほどのマラーD製の代用になります。

「ドリス・デイ」も同じような感じで、ほんの少し脂っ気が足りない感じでしたが、ほとんど同様の表現だったと思います。おそろしくこれは、値段がマラーD製より

の再生のほうが本筋かなという  
気もしました。  
篠田 まことに素晴らしいEL

みずみずしいヴォーカルが聴けました。  
全体として、これはなかなかいい球だな  
という印象です。

安いと思いますので、十分に補修用、代替品として使えろと思います。

倉持 私の印象では「ペーターヴェン」は、せつかくのウイーン・フィルの演奏なのに、どこか出来の悪いスラヴ系のオーケストラが演奏したみたいになってしまったと思います。

この真空管はスロヴァキア製だそうですが、偏見のそしりを恐れずに言えば、ポヘミアの音がしています。

しかし、その反面「ドビュッシー」はかなり聴けます。

ところが「ソニー・ロリンズ」の再生はあまりよくありません。なにがチグハグなイメージがあり、ドラムスにしても、タムタムとか、バスドラとか、スネアとか、シンバルとか、せつかく質感の違うものを叩いているのに、その違いの描写が曖昧です。それに、ソニー・ロリンズが吹いているテナーサクサスの質感も、あまりよく出ていないという印象です。したがって、ブレイヤーたちの弾むようなかけ合いのおもしろさも感じられません。

「ドリス・デイ」は、それなりに聴かせてくれますが、このドリス・デイの録音はどんな真空管でもそこそこの音で聴かせてくれるところがあるので、いく

らほめてもしようがないでしょう。

篠田 先ほどのテレフンケン製のEL34のところでも言った、しつかりした中域とか、楽器の姿を端正に描き出すといった特徴は、この球ももちろん持っていますが、4枚のダイスクの再生音に共通するのは、やはり硬い音ということです。

「ペーターヴェン」では、パワー感とか、迫力みたいなものはあるんだけど、全体にやはり弦にしても管にしても、しなやかさやふくよかさに欠けて、やや粗さが先に立つという感じがして、ちょっと聴きづらいなという感じがしました。

「ドビュッシー」のピアノは、高いほうがそれほど伸びているような感じはしませんが、ヒスノイズがよく聴こえます。どこか高域のある部分にピークがあるのかなという感じなんです。ピアノの輪郭やタッチなどはわりあいよく出ていて、いいんです。響きも足りないという印象です。

「ソニー・ロリンズ」も、エネルギー感とか力はあるんですが、楽器そのものの出方が硬く、しかも刺激的なところがあるので、ちょっと僕の好みからは外れているという感じですが。

「ドリス・デイ」も、声がわりあい瘦せて聴こえるんですね。何というか、声の先が細身になる傾向があるので、もう少しふくよかなドリス・デイであってほしいと思います。ただ、全体の雰囲気は悪くないので、あと一歩という感じです。